

オホーツクの概要

全 般

オホーツク地域は北海道の北東部にあって、約280kmの海岸線でオホーツク海と接しており、北西は宗谷総合振興局、西は上川総合振興局、南西は十勝総合振興局、南は釧路総合振興局及び根室振興局に接しています。総面積は10,691㎢と全道面積の12.8%を占めます。

気候は、日照時間が多く積雪量が少なく、1月下旬から3月にかけて沿岸部では、オホーツク海特有の「流水」により海面が覆われるという、他の地域には見られない特色があります。

海と陸の自然環境が密接に影響し合う豊かな生態系と様々な動植物の生育・生息地であることが評価され、平成17年に世界自然遺産に登録された「知床」をはじめ、網走国定公園など、豊かな自然景観に恵まれています。

農 業

オホーツク地域の農業は、耕地面積で全道の14.5%を占め、この恵まれた土地資源を背景に、全道一の大規模な玉ねぎ生産を始め、麦・甜菜・馬鈴薯などの畑作と酪農を主体とする生産性の高い農業を展開し、食料供給地域として重要な役割を担っています。

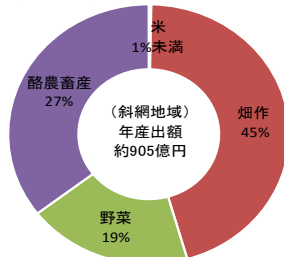
オホーツク地域は、気象や土地条件などの違いにより、斜網・北見・東紋・西紋の4地域に大別され、それぞれの条件を活かして地域ごとに特色ある農業が営まれています。

近年は、農産物の付加価値向上のため農業者自ら行う加工品の製造・販売や、野菜など収益性の高い作物の導入、またファームイン・直売所・農業体験などによる都市住民との交流といった取り組みも行われています。

斜網地域 耕地面積約74千ha

(網走市・美幌町・津別町・大空町・斜里町・清里町・小清水町)

長い日照時間や少降雨の条件下で、畑作3品(甜菜・馬鈴薯・麦類)を中心とした大規模畑作農業が展開されています。海岸や河川沿いでは泥炭地、その他では火山灰地、重粘土と、様々な特殊土壌が存在しています。

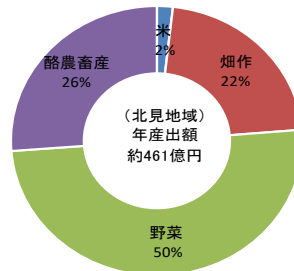


出典: R2年農水省統計情報(以下3地域共通)

北見地域 耕地面積約36千ha

(北見市・訓子府町・置戸町)

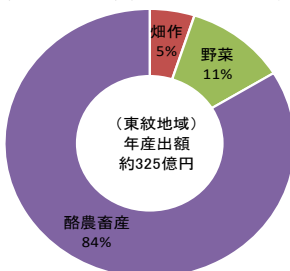
北見地域はかつてはハッカの世界的産地でしたが、今では玉ねぎの全国的産地となっています。また、斜網地域と同様の気候条件を活かした畑作も盛んです。



東紋地域 耕地面積約26千ha

(佐呂間町・遠軽町・湧別町)

酪農経営を中心としつつ、湧別川流域や内陸部では玉ねぎやカボチャなどの野菜類や畑作(麦類等)も取り入れ、多様な農業経営が展開されています。



西紋地域 耕地面積約30千ha

(紋別市・滝上町・興部町・西興部村・雄武町)

灰色台地土など、いわゆる「重粘土」が多くを占めており、加えて海岸部の冷涼な気候条件から、酪農経営が中心となっています。飼料の自給が課題となっています。

